

りそな Asia時事フラッシュ

中国人民銀行が金融緩和強化に入る

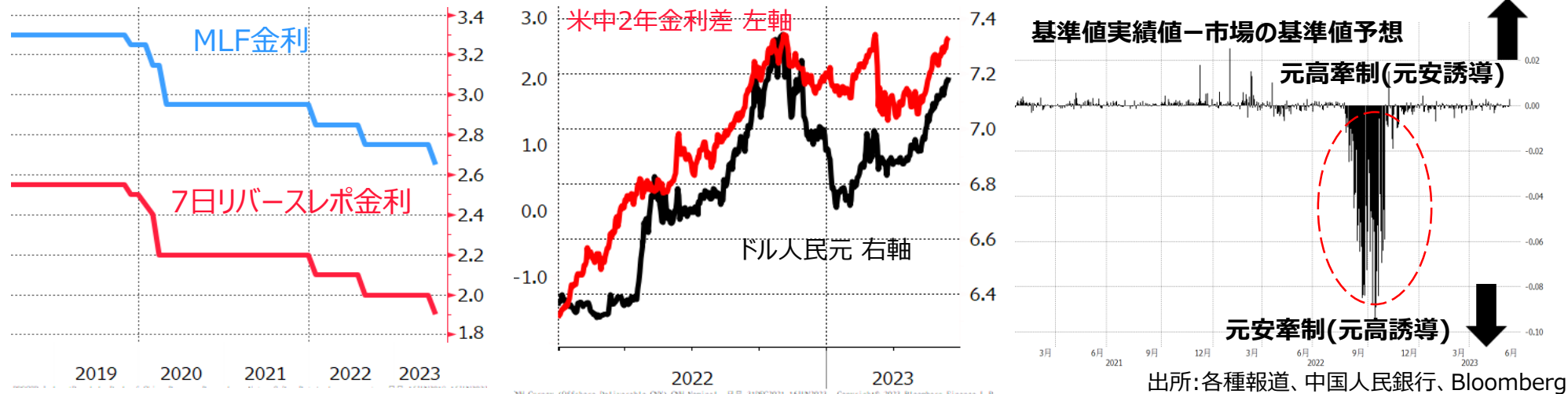
 りそなHD 市場企画部
担当: 呉

政策金利引き下げでPBOCが金融緩和強化に入る

- 6月13日に中国人民銀行(PBOC)が7日リバースレポ金利を2.0%から1.9%に引き下げた。当金利は短期政策金利であり、PBOCが市場に流動性を供給する際の金利となる。また、同日夜に短期政策金利の上限であるSLF(常設貸出ファシリティ)金利も0.1%引き下げとなった。
- 先日発表された国有銀行の預金金利引き下げを受けて、LPR(最優貸出金利)等の引き下げ期待は高まっていたが、短期政策金利が早々に引き下げられたことはやや予想外の動きといえる。ただし、6月7日にはPBOC易総裁は景気への見通しが楽観的な見方も示す一方で「カウンターシクリカル(逆周期)調節を強化する」といった景気支援のスタンスを示しており、PBOCが金融緩和強化する段階に入ることも示唆した。直近の景気回復のモメンタムの鈍化と冴えない信用統計が金融緩和の引き金となっているとみられる。今月の主要経済指標も先月と比べて鈍化した。
- これにより基本的に同じタイミング、同じ幅で調節されるMLF金利(中期政策金利)の引き下げは15日に実施された(左下図)。MLF金利引き下げや銀行の調達コストの削減により、「MLF金利+スプレッド」で算出されるLPR金利(出基準金利)は0.1%以上の低下となる可能性がある。LPR金利低下は景気支援材料で、特に住宅ローン金利の基準であるLPR5年物が0.1%以上低下れば、不動産市場の好材料となる。

人民元安継続するも当局が容認

- 政策金利の引き下げを受けて中国金利低下が進み、他国との金利差の拡大から人民元は弱含み、人民元指数は昨年末の安値を試す勢い。ドル人民元相場の主なけん引役である米中2年金利差は昨年来の高値水準に近づいている(中下図)。中国の利下げ期待の実現による材料出尽くし感と財政支援策観測から中国金利の一段の低下余地が限られるとみている。一方で、米金利については高インフレと弛緩した金融環境を前にFRBが今月のFOMCでドットチャートを通じてタカ派姿勢を強化した中で更なる金利上昇の可能性がある。米金利上昇が主導する形で米中金利差拡大によりドル人民元には上振れリスクがあるだろう。
- 一方、元安に対して当局が容認姿勢を見せていることは興味深い。右下図は人民元の基準値設定に関する実績値と市場予想値の差で、マイナスが大きいほどPBOCの元安けん制姿勢が強い。昨年末に元安けん制が強かったが、今年に入り確認されなくなった。当局が元安けん制をしない背景には、輸出産業支援や先々のドル安見通しが影響しているとみられる。実際に6/8には外貨管理局の潘局長が「FRB利上げサイクルが終盤に入り、ドル高が継続しにくい」と発言している。



出所: 各種報道、中国人民銀行、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。